

【10-3-10】 主要科目の特長（スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科）

こどもスポーツ教育学科のカリキュラムを構成する科目群・分野の内容は次のとおりです。

(1) NGU 教養スタンダード科目

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」についてを理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞（＜身体理解＞）、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞（＜身体理解＞）、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を学びます。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実は、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、す

すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに設置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

(2) 専門科目

① 学科基礎科目

《学科基礎科目》は「こどもスポーツ教育論」や「発育発達とスポーツ」などの講義および「運動指導法」といった実技科目を含めて、10単位が必修であり、それに加えて選択として3単位以上の修得が必要となっています

② 学科専門科目

《学科専門科目》のうち必修が72単位となっています。これに加えて選択科目を19単位以上修得することが必要です。

また幼児教育コースならびに初等教育コースには、それぞれコース指定科目が設定されており、それらを修得する必要があります。

さらに日本体育協会その他の認定する資格を取得する場合は、指定されている科目の履修が必要となります。

(3) 演習科目

こどもスポーツ教育学科では、1年次に「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」、2年次に「専門演習」、3年次に「研究演習」さらに4年次に「卒業研究」を設けることにより、4年間一貫した少人数でのゼミナール形式の演習をおこないます。みなさんは、学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題を解決しながら、能力の向上に努めてください。また、4年間一貫のゼミナール教育で、積極的な人間的交流を図ることにより、幅広い友人関係を育み、指導教員を含めた有機的なコミュニケーションのパイプを築いてください。ゼミナールは4年間の大学生活の中核であり、学修、研究、指導教員やゼミ生間の交流をとおして大学での学修の集大成となり、将来の人生への基盤となるものです

①<基礎セミナーおよび基礎セミナーⅡ>

1年次配当の「基礎セミナー」および「基礎セミナーⅡ」は、導入および基礎教育をフォローするための科目です。2・3年次においての専門研究に取り組むための基礎を築きます。

- ①子どもやスポーツや教育に関する文章を読み、その内容を要約、紹介する。
- ②子どもやスポーツや教育に関する問題を提起し、討論する。
- ③子どもやスポーツや教育に関する情報を収集し、紹介する。
- ④図書検索や、インターネットを利用した検索を学修する。

①から④の方法をとおして、健康に関する知識を高めながら、読解力の育成や文章を要約しまとめる能力の向上を図ります。

②<専門演習>

2年次配当の「専門演習」では、興味のある子どもやスポーツや教育に関するテーマを基本に、指導教員のもとで、より専門的な学修をおこないます。

- ①子どもやスポーツや教育に関する図書や文献を読み、その内容について紹介、討論をおこなう。
- ②子どもやスポーツや教育に関する英語の文章を読み、報告、討論をおこなう。
- ③子どもやスポーツや教育に関するテーマの中で、関心のある事象を調べ、報告する。
- ④レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学ぶ。

③<研究演習>

3年次配当の「研究演習」では、子どもやスポーツや教育に関する多くの課題の中から、卒業研究テーマを模索しながら自らの関心を絞り込み、情報収集、資料収集を通じて卒業研究テーマの基礎を学修します。

- ①国内および海外で刊行された専門の文献や著書を読み、その論点の要旨を理解する。
- ②専門の文献や著書の読解をとおして、その論点を理解し、問題点を探る。
- ③関心のある事象の問題点を整理し、その解決方法を探る。
- ④関心のあるテーマを絞り、研究課題を策定、プレゼンテーションをおこなう。
- ⑤プレゼンテーションおよびその討論を基礎にして研究報告書(4,000字以上)の作成をおこなう。

卒業研究をおこなうための基本的研究への取り組み姿勢を養いながら、研究の方法論を身につけてください。

④<卒業研究>

「卒業研究」は、「研究演習」の指導教員のもとで作成した「研究報告書」をもとに、専門的研究の集大成として、研究成果を卒業論文(10,000字以上)にまとめます。

◎専門科目の一部をピックアップ

保育内容指導法

幼児教育の基本的な柱となる言葉や環境、健康、人間関係、表現・音楽などについて理解を深めたうえで、それらの分野を楽しく、かつ効率よく子どもたちに指導する方法を身につけていきます。

こどもの運動遊び

運動遊びは、幼児期に基本的な運動動作を獲得するために極めて有効で、児童期の体育やレクリエーションでも重要な、子どもの発育に欠かせない要素です。この授業では、科学的に実証された研究成果に基づき、さまざまな運動遊びについて学びます。

初等教育内容科目

小学校で扱われる全教科科目について、内容構成の構造から理解していきます。実験や実習を伴う教科に関しては、安全性を優先しつつ、児童の学習効率が高まる手順を学びます。